

受 賞 者 紹 介

<担い手育成部門>

鈴 木 和 昭

<技術改善部門>

平 野 和 実

<農業・農村振興部門>

稲 垣 富 宏

表彰者の評価事項

1 担い手育成部門

すず き かず あき
鈴木 和 昭 氏

生年月日 昭和26年 7月30日（61歳）

住 所 豊橋市小松原町東島12番地



鈴木和昭氏は、愛知県内の農業高校の教員を務められた方で、教員退職後の現在も、地元小松原町の副自治会長として担い手育成に励んでおられる。氏が関与した農業後継者との交流は、退職後の現在も続いており、経営のことだけではなく、家族のことや町自治に関すること等の相談を受けて、アドバイスをを行っている。

氏は、花き栽培が専門で、主に渥美農業高等学校に勤務された。氏は、生徒を優秀な花き経営者に育成するために、先進花き生産者に生徒を同行し、生徒への研修を実施した。また、生徒が進学そして就農後も経営や栽培技術への指導・助言にとどまらず、農村社会の担い手としての責務や家族経営の安定・拡大のために助言を行い、担い手の育成を図ってきた。渥美農業高等学校で、氏が関与し、現在花きで就農されている方は、108名にのぼる。

渥美農業高等学校教頭時代には、生徒とともに四角いメロン「カクメロ」の開発に携わり、関係機関の調整や交渉等の用務を行い、商標登録・特許取得を現実のものとした。併せて「カクメロ」の特産品化に尽力された。

担い手を自らの手で育成されていることを高く評価しました。

(略 歴)

昭和49年4月	愛知県立渥美農業高等学校	教諭
平成6年4月	愛知県立安城農林高等学校	教諭
平成13年4月	愛知県立農業大学校	主任専門員
平成16年4月	愛知県立渥美農業高等学校	教頭
平成19年4月	愛知県立渥美農業高等学校	校長
平成24年4月	定年退職、豊橋市小松原町副自治会長	

(表彰歴)

平成13年	全国農業高等学校長協会	教員表彰
平成23年	御下賜金記念産業教育功労者	表彰
平成24年	農業教育功労者	表彰

2 技術改善部門

ひらの かずみ 平野 和実 氏

生年月日 昭和28年 9月19日（59歳）

住 所 海部郡飛島村元起2丁目72番地



平野和実氏は、花きの栄養繁殖系品目の省力化と生産性を高める技術を地域に先駆けて取り組み、後継者が育つ産地を育成した。また、生育調整技術の導入によりポインセチアをベゴニア類、ブーゲンビリアと並ぶ主力商品として育て上げた。

生産場面では、鉢花栽培で労働時間の約3割を占めるかん水作業の省力化をはかり、10a当たりのかん水時間を150時間から9時間へと大幅な削減を実現した。また、栄養繁殖系品目のポインセチアの増殖では、高压ノズルを使用した細霧装置を活用して栽培環境を改善することにより、挿し木苗のロス率は50%から1%へ大幅に減少させた。

規模拡大にあたっては、フォークリフトや輸送用台車が積極的に活用できる施設設計を行い、作業時間の短縮と作業者に負担がかからない施設整備を実現した。

後継者育成でも、愛知県立農業大学校の学生をはじめ農業後継者やJA職員などを積極的に受け入れている。研修生に対しては、研修後も連絡をとり、進路や今後の栽培品目について相談に乗り、就農を支援している。

平成16年から海部苗木花卉生産組合連合会の会長、平成17年からは、愛知県花き温室園芸組合連合会副会長を務めており、海部地域だけではなく、愛知県全体としての花き生産振興に貢献している。

氏は、省力化技術の導入、新品目の栽培技術の確立等の技術革新において先駆的な役割を果たしてきたばかりでなく、農業後継者の育成、花き生産振興に尽力されたことを高く評価しました。

(略 歴)

昭和48年 就農、鉢花経営（ポットマム）

平成16年～現在 海部苗木花卉生産組合連合会 会長

平成17年～現在 愛知県花き温室園芸組合連合会 副会長

(表彰歴)

平成16年 東海鉢物品評会 農林水産省生産局長賞

平成19年 花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール
農林水産省生産局長賞

平成20年 愛知県花き温室園芸組合連合会会長表彰

平成23年 飛島村 表彰

3 農業・農村振興部門

いな がき とみ ひろ

稲垣富宏氏

生年月日 昭和21年12月 8日（65歳）

住 所 西尾市上町垣外屋敷16-1



稲垣富宏氏は、就農と同時に茶（てん茶）栽培に取り組み、平成12年からは、その人格、識見、率先力が評価され西尾市茶業組合の組合長に就任し、「西尾の抹茶」の生産振興とブランド化に大きく貢献した。

茶の生産振興では、棚下茶園用の乗用型摘採機の開発と導入を促進し、摘採・整枝作業の効率化と省力化を実現し、担い手育成と確保を推進した。

また、安全・安心なてん茶づくりでは、窒素の施用量をピーク時に比べ4割削減を行うとともに、農薬では、交信攪乱剤・防虫網の利用や難防除害虫対策を実施した。また、トレーサビリティシステムの導入を進めた。

抹茶の里、西尾を市民のものにするために、「ギネスに挑戦！！まちなか1万人西尾大茶会」への開催を協力・支援した。その結果、イベントは見事に、ギネス記録を更新しその場で認定証が発行され、西尾の抹茶を内外にPRすることができた。

また、地域特産品マイスターの育成の他、毎年「西尾の抹茶八十八夜行事」や新年茶会等のイベントの開催の他、市内の小中学生を対象にした茶摘み体験等を行い、茶を通じた地域社会活動を積極的に推進している。

このように、氏は茶の振興や地域農業の振興に多大な功績があり、今後の活躍が期待できることを評価しました。

（略 歴）

昭和59年	西尾市茶業組合	理事
昭和63年	西尾市茶業組合	副組合長
平成12年～平成24年3月	西尾市茶業組合	組合長
昭和63年～平成24年3月	愛知県茶業連合会	理事
平成20年～現在	西尾茶協同組合	理事

（表彰歴）

平成11年	愛知県茶業連合会設立50周年記念茶業功労者表彰
平成22年	関西茶業功労者表彰
平成22年	西尾市表彰条例に基づく一般表彰